

令和5年3月17日

保護者の皆様

日向市立日知屋東小学校  
校長 平田 哲

## 令和4年度の学校評価について

本年度実施しました児童・保護者及び教職員へのアンケート、教職員による自己評価書をもとに学校運営協議会委員を含めた学校関係者評価委員会を開きました。その結果は以下のとおりです。この結果は、次年度の教育活動の充実に活用してまいります。令和5年度も引き続き、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

### 【アンケート集約結果】

【評価】	4：よくできている	3：どちらかというとできている
	2：どちらかというとできていない	1：できていない

### 1 領域ごとの自己評価と関係者（領域ごとの総括評価）

領域	番号	項目	児童	保護者	職員	平均	関係者
徳育	1	自分から進んであいさつできる	3.4	2.9	2.2	2.8	2.9
	2	名前を呼ばれたらきちんと返事ができる	3.6	3.4	2.5	3.2	
	3	学校のきまりを守る	3.5	3.5	2.7	3.2	
	4	思いやりの心が育っている	3.7	3.4	2.8	3.3	
	5	子どもの長所を把握し伸ばしている	/	3.2	3.0	3.1	
体育	5	早寝・早起き・朝ご飯	3.2	3.1	2.7	3.0	3.0
	6	体力や運動能力	3.4	3.1	2.5	3.0	
知育	7	学習内容を理解している	3.4	3.1	2.7	3.1	2.9
	8	自宅学習をしている	3.6	3.1	2.8	3.2	
	9	進んで読書している	3.1	2.4	2.6	2.7	
小中連携	10	小中連携の推進	/	2.7	2.4	2.6	2.9
	11	めざす児童像にむけた取組	/	2.8	2.5	2.7	
学校	12	学校環境が整備されている	/	3.1	2.5	2.8	2.9
	13	文書や連絡のわかりやすさ	/	3.3	3.0	3.2	
	14	保護者の相談への対応	/	3.2	3.2	3.2	
PTA	15	PTA活動へ参加している	/	2.6	2.4	2.5	2.4
	16	地域行事等に参加している	/	/	/	/	
安心		明るく、あたたかく、安心できる学校	3.6	3.2	2.9	3.2	3.2

### 1 アンケート結果全般について

昨年度の結果と比べると、児童・保護者については大きな変化はなかった。教員の結果は、昨年度よりも下がっている傾向が見られた。特に挨拶や返事については、コロナ禍によるコミュニケーション不足や、マスクを着用しているため、声が届きにくいなどの要因もあると考える。令和4年度においては、コロナ禍による制限をしながらも教育活動を進めていくことができた。令和5年度は、学校と家庭、地域が積極的に関わられるような教育活動を展開していき、児童の健全な育成を目指したい。

## 2 児童の実態と今後の取組

◎ 児童や学校の様子・意見・課題等を含めて、ご意見やご要望の多かった内容

### (1) 「あいさつ・返事」について

#### 【児童の実態】

- 登下校時に自分から気持ちよいあいさつができる子が多くなってきた。
- 集団登校班によって、あいさつの様子や声の大きさに違いがある。
- 「はいっ」という気持ちよい返事ができる児童はまだ少ない。

#### 【今後の取組】

- ※ 今後もあいさつ賞等で意欲を高める取組を継続し、日常的にあいさつの励行や会釈などの指導を繰り返し行うとともに、教師も明るいあいさつを心がける。
- ※ 学校と保護者、地域と連携し、児童のよい姿を称賛し、意識を高める。
- ※ 年度当初に生活のきまりについての指導を行うとともに、継続的に指導する。

### (2) 「体の健康および運動習慣」について

#### 【児童の実態】

- マスク、手洗い、検温を習慣化することで健康に対する意識が高まってきた。
- 集団での遊びや体育の活動が制限されたことにより、体力が落ちるだけで無く、児童のストレスにもつながっている。

#### 【今後の取組】

- ※ 今後も継続して、自分の体調管理ができるようにするとともに、生活リズムを整えられるよう指導を行う。外部講師等活用し、メディアとの付き合い方を考えさせるとともに、家庭と連携し改善に努める。
- ※ 新型コロナ等感染症への対策を行いつつ、可能な限りコロナ禍以前の体育の活動に戻していく。縄跳び運動やボール遊びなど、昼休みの外遊びを推奨し、体を動かす機会を増やすようにする。

### (3) 「学習や読書」について

#### 【児童の実態】

- 学力検査等の結果から学力の向上がみられるが、学習への取組には個人差が見られる。
- 読書に進んで取り組む児童が多いとはいえない。図書室で進んで本を借りる児童数は多いとはいえない状況である。

#### 【今後の取組】

- ※ 授業では、教師がめあての設定やまとめの時間の確保を行い、「何ができるようになったか」について、児童一人一人が自覚できるようにする。また、家庭と連携し、自宅学習の習慣化にも取り組む。
- ※ 今後も図書室の整理整頓を進め、子どもたちが興味をもちながら、落ち着いて読書を楽しめる環境づくりに努める。朝の読書の時間や家庭読書を継続するとともに、読み聞かせを再開し、本にふれる機会を設けていく。

### (4) 「小中連携」について

#### 【学校の実態】

- 中学校のテスト期間に合わせて、ノーメディアタイムを行うことができた。その取組により、充実した時間を過ごせたという家庭も多かった。
- 中学校区で一斉に防災訓練を実施した。学校と家庭、地域が一体となった活動を推進できた。

#### 【今後の取組】

- ※ 学校便りやホームページ等で小学校と中学校が連携して行う活動や行事等について情報を発信し、小中連携による取組の成果等について周知に努める。

児童や保護者の方々のご協力により多くのご意見やご要望をいただくことができました。

本校のよさや課題について確認し、改善の方向性を明らかにできました。

今後、校内でも協議・検討をもとに、改善策を見いだし、学校と家庭、地域が一体となり、児童が安心し、楽しく、充実した学校生活が送れるよう取組を推進していきたいと思っております。